

カワラヒワ属の特徴と識別

2024-02-05 長嶋宏之

(1) はじめに

日本鳥類目録改定第7版（以下、第7版）によると、カワラヒワ属は次の3亜種からなっている。

亜種オオカワラヒワ

亜種カワラヒワ

亜種オガサワラカワラヒワ

亜種オガサワラカワラヒワは主に小笠原諸島に留鳥として分布しており、埼玉県内には生息しない。
また近く出版される第8版では独立種になるようだ。したがって、今回は参考程度の紹介に留め、主に亜種オオカワラヒワと亜種カワラヒワの特徴と識別について述べる。

(2) 主な特徴

表1：主な特徴と習性

分類・種名	スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ		
和名	亜種オオカワラヒワ	亜種カワラヒワ	亜種オガサワラカワラヒワ
学名	<i>Chloris sinica kawarahiba</i>	<i>Chloris sinica minor</i>	<i>Chloris sinica kittlitzii</i>
英名	Oriental Greenfinch		
全長	16cm±	14.5cm±	(13cm ~ 14cm)
翼長/嘴峰	83~92mm / 12~14mm	74~83mm / 10~12mm	72~77mm / 12~13.5mm
渡り	冬鳥として渡来。10月頃~4月頃まで留まる。	留鳥。北方のものは冬季、暖地に移動。北海道では夏鳥。	小笠原諸島、硫黄列島に留鳥として分布。
産卵期	6月~7月(千島列島)	3月~7月	4月下旬~5月上旬
一腹卵数	広葉樹の地上1.5~3m位の枝上に営巣する。	3~5個。抱卵は主に♀。平地~1000m位の標高で、地上3~7m位の枝上に営巣する	喬木の地上3~5m位の枝上に営巣する。
営巣環境			
生息環境			

(注1) IOC list v14.1 による亜種オオカワラヒワと亜種カワラヒワの英名は Grey-capped Greenfinch
亜種オガサワラカワラヒワの英名は Bonin Greenfinch。学名の *Chloris sinica* は中国のアザミを好む鳥の意。

(3) 識別ポイントと外観

表2：主な識別ポイントと外観

(亜種オオカワラヒワは資料②より引用。亜種カワラヒワは資料⑤より引用)

識別ポイント	亜種オオカワラヒワ	亜種カワラヒワ	亜種オガサワラカワラヒワ
三列風切外縁の灰白色幅(雌雄共通)	幅が広く目立つ(個体差あり)	幅が狭く目立たない	あまり目立たない。
初列風切羽端の灰白色幅(雌雄共通)	亜種カワラヒワより幅広く、後ろから見ると目立つ	亜種オオカワラヒワより幅が狭く目立たない	目立たない

頭頂、後頭、後頸、 頬、耳羽、腮、喉	♂は頭から後頸にかけて 灰色。顔、喉、頸は緑黄色	♂は黄緑色を帯び暗灰色。春 季は頭頂及び後頭は黄緑色が 鮮やかで、冬季は暗色がち。	
眼先・嘴の基部		♂は黄緑色を帯びた黒配色。	
肩羽と背、 上尾筒	♂の背と肩羽は褐色。	♂は黄緑色を帯びた褐色。＜ 上尾筒＞は暗灰色で、＜各羽 の基部＞は黄緑色帯びる	亜種カワラヒワよりやや 小さい。風切と尾羽の黄 色帯は雌雄幼鳥とも幅 が狭い。全体に緑味があ る。
胸・腹と下尾筒	♂の胸から腹は黄色味の ある褐色。下腹の一部と下 尾筒は黄色	♂の＜腹＞は黄色を帯びた オリーブ色。＜下腹＞は黄白 色。＜下尾筒＞は黄色	
♀成鳥	成鳥♂より全体的に淡色 で黄色味がある。顔の緑黄 色も少ないのがふつう。腹 部の色が濃い褐色味であ ることが多い。比較的濃い 顎線がある。	＜頭・頸＞は褐色。＜耳羽・ 頬・腮＞は黄緑色を帯びた灰 褐色。＜胸＞は灰褐色。＜腹 ＞は黄色を帯びた灰白色。＜ 上尾筒＞は褐色。＜下尾筒＞ は黄白色。他は♂と同様。	
幼鳥	亜種カワラヒワより大き い。	♀に似るが、体下面は灰白色 で、黒褐色の縦斑がある。	

(4) 三列風切の位置と外縁

三列風切外縁の灰白色の幅は、亜種オオカワラヒワと亜種カワラヒワを識別するに有為の識別ポイントである（個体差があるので注意が必要）。そこで、三列風切について詳しく記す。

(4-1) 三列風切の外縁

図1に右翼の三列風切の3枚の内の一枚を示す。外縁の部分が灰白色で帯状になっている。

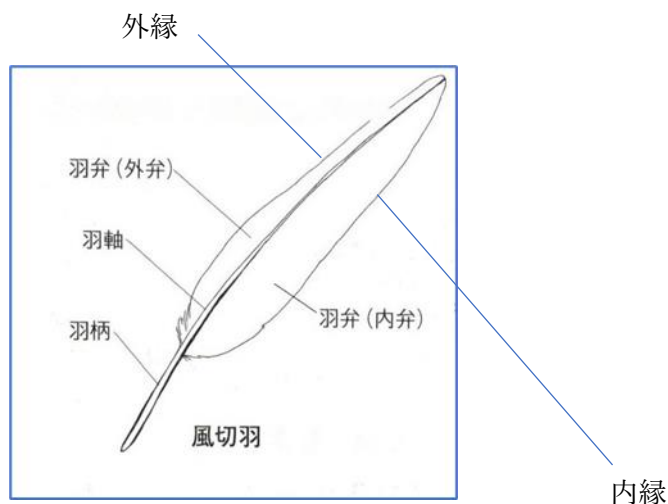


図1：右翼の三列風切

(『フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版 高野伸二著』より引用)

(4-2)鳥の身体の三列風切の位置

鳥の身体の三列風切の位置を図2に示す。三列風切は3枚の羽で構成されている。

鳥体各部の名称①

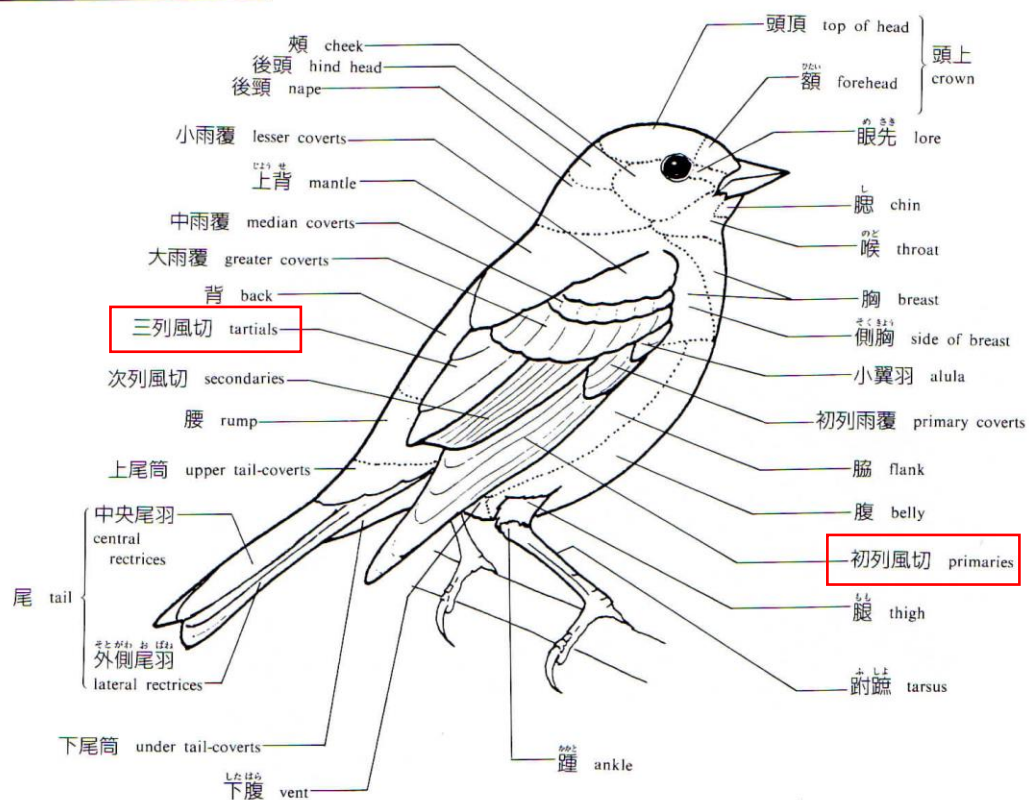


図2：鳥の身体の三列風切と初列風切の位置

(『正確な識別のための基礎知識 鳥の各部の名称』より引用)

(4-3) 亜種カワラヒワの翼と尾

写真1に亜種カワラヒワの翼と尾の展開を示す。



写真1：亜種カワラヒワの翼と尾 展開 筆者所蔵

写真1-1：三列風切 拡大

写真1は亜種カワラヒワの翼と尾の展開である。写真1-1に三列風切の外縁を拡大した。亜種オオカワラヒワは三列風切の外縁の灰白色帯の幅が広く、目立つが個体差があるので、注意が必要である。

(5) 写真で見る亜種オオカワラヒワと亜種カワラヒワ



写真2：亜種オオカワラヒワ Ad♂ (18-11-28) 長嶋一見沼自然公園



写真3：亜種オオカワラヒワ Ad♀ (15-01-19) 長嶋一西の洲



写真4：亜種カワラヒワ Ad ♀ (21-05-16)長嶋—蓮田市



写真5：亜種カワラヒワ Ad ♂ + Juv (14-06-17)長嶋—高崎市



写真6：亜種カワラヒワ 幼鳥(10-08-03)長嶋一富士山・野鳥の森



写真7：亜種オガサワラカワラヒワ(18-09-17)太田一母島

(6) 終りにあたり

- (1) カワラヒワ属はその色合いに個体差があるように感じる。色合いの個体差はその個体の健康度合い、年齢・性別・季節などによって違いが現れるのであろうが、頭部・後頸部・顔などは構造色によるとも考えられる。
- (2) 天候(晴・曇)、光線条件(順光・逆光)、観察器具(双眼鏡・望遠鏡)を使うか使わないか、鳥までの距離などによっても見える色合いが異なってくる。写真に撮っても実物と違った色合いに撮れたりすることもある。
- (3) したがって、見え方や識別ポイントは表2の他にもあると思う。
- (4) 亜種オオカワラヒワと亜種カワラヒワの識別にお役に立てばという思いから筆をとったが、本稿の記述には夏羽と冬羽の違いにさえ、まだまだ未熟な点が多々あると思う。特に雌雄のJuv,1w,1sの識別に関してはほとんど触れていない。これからのバードウォッチングを通して、新たな知見が得られたならば、本稿を見直し修正して、さらに充実した内容の識別基準にして頂けたらと願う。

(7) 謝辞

最後になるが、亜種オガサワラカワラヒワの写真を快く提供してくれた太田氏に深く感謝する。

引用文献・資料

- ① 日本鳥類目録 改定第7版 2012年9月
- ② 増補改訂新版日本の野鳥 写真・解説：叶内拓哉 山と溪谷社 2011年12月
- ③ 日本の野鳥 650 写真：真木広造 解説：大西敏一、五百澤日丸 2011年12月
- ④ 比べて識別！ 野鳥図鑑 670 第4版 永井真人・著、茂田良光・監修 文一総合出版 2023年
- ⑤ 日本鳥類大図鑑増補改訂版Ⅰ 清棲幸保 講談社 昭和55年3月
- ⑥ フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版 高野伸二著 日本野鳥の会 2015年6月
- ⑦ 正確な識別のための基礎知識 鳥の各部の名称 山階鳥類研究所員 茂田良光 作画/佐野裕彦

以上